

◎評価シート（平成29年度）

記入日 30年 3月30日

平成29年度実施した協働事業について、提案団体と事業担当課において、下記の内容により互いに評価を行うことで、意思の疎通を図り、今後の事業実施等に活かすため、ご活用ください。

団体名 (記入者名)	子どもNPOはらっぱ ( 殿井 幸代 )	事業担当課名 (記入者名)	生涯学習推進室 ( 井上 真理 )
事業名	放課後の子どもの居場所事業		
事業開始年度	平成26年度		
提案の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民自由提案部門 <input type="checkbox"/> 市設定テーマ部門		

1. 事業概要

(1) 事業目的・目標

小中学生が自由にあそべる場所がない現状の解決策として、子どもがありのままの自分でいられ、休息を取り戻し、自由に友だちとあそび、安心して人間関係を作りあうことができる「子どもの居場所」を地域に開設し、存続させることを目的とする。

(2) 事業費の負担額

団体	0円
市	567,000円
合計	567,000円

(3) 実施した内容

子どもたちが平日の放課後、自由に参加できる居場所の開設  
 ・みんなであそべるカードゲーム等を用意し、子ども同士が自由にあそべるフリースペースとして、平日の週3回午後3～5時まで、西鳥取・尾崎・東鳥取の3会場で実施した。  
 ・夏休み、冬休み、春休みは、午後1～5時まで（夏季は5:30まで）、  
 ・全体の交流会として「ボードゲームであそぼう」8/29「木のプレートづくり」12/25「おやこカーニバル」10/29、地域教育協議会イベント時に参加  
 ・「子どもをとりまく社会課題（ひきこもり児童等）」への対応 月一回午前開設 10～12 東鳥取会場

2. 事業の評価

※評価点（3段階）

3	2	1
できた	概ねできた	できなかった

(1) 協働性

評価項目	評価点 (3段階)		
相互に理解し合い、対等な関係が築けたか。	3	2	1
事業全般を通じて十分に協議を行い、行政と十分な意思の疎通が図れたか。	3	2	1
責任の所在や役割分担は、適切であったか。	3	2	1

相互に相手の強みを事業に活かすことができたか。	3	2	1
それぞれ単独で実施するより、より効果を生み出すことができたか。	3	2	1

(2) 実現性・有効性

評価項目	評価点 (3段階)		
協働の形態（委託・共催・事業協力等）は適当であったか。	3	2	1
事業を実施するのに、十分な実施体制をとっていたか。	3	2	1
関係する多様な人々を巻き込んだか。	3	2	1
予算は妥当だったか。	3	2	1
参加者、受益者は意図した人々だったか。	3	2	1
参加者、受益者の満足度は得られたか。	3	2	1
予定した成果は上がったか。	3	2	1
地域のまちづくりやコミュニティ形成に役立ったか。他の地域のモデルとなり、普及したか。	3	2	1

(3) 実施してよかった点・どのような点にメリットを感じたかなど

団体 にとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立小中学校へ案内チラシを毎月配布し、開催案内を参加対象者に届けることができた。</li> <li>・安定した財源により継続して運営し、関わるスタッフの確保ができた。</li> </ul>
市 にとって	委託することにより、事業の事務が軽減できた。
市民 にとって	放課後、子どもが遊ぶ場所ができた。

(4) その他、評価点の理由や課題・その改善点など

<p>市と協働で実施することにより、安定して実施でき、子どもたちは開設日を楽しみにしてくれているが、今後に向けて、様々な課題が見える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施会場は、3ヶ所いずれも子どもにとって適切とは言いがたく、トラブルも起きている。 →子どもたちがのびのびと遊べる場所の検討は今後も必要。</li> <li>・担い手となる人手が不足気味であり、実施回数をこなすのが難しい。ボランティアも含め、より多くの人に関わってもらえるよう、働きかけが必要である。 →放課後の居場所の取り組みを地域や学校、保護者への理解と協力を求め、子どもたちが安心安全に過ごせるためにあそび場の見直しや必要性などキッズはらっぱを通してより関心を持ってもらう。そのためには居場所事業の広報活動など強化し、地域や保護者への周知に努める。</li> <li>・何度も来ている子どもについて、緊急連絡先が不明なまま受け入れを続けているケースが散見され、もしもの際の連絡体制に不安がある。</li> </ul>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- ・東鳥取は参加者が少ない。
- ・尾崎は人数が多すぎ、安全管理が困難な状況である。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (■提案事業継続、□提案事業以外) □休止または終了
- 市が単独で実施 □団体が単独で実施
- その他 ( )

※実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など補足事項を記入してください。

- ・放課後の居場所事業は単独の実施は不可能であり、今後発展させていくためには市との協働は不可欠である。子どもたちが健やかに過ごせるまちづくりへとつなげていくためには、双方の関係性をより深め協力し事業の発展へとつなげていく。
- ・同じ形態で続けていくのは困難と考える。場所、回数を含め、今後双方で検討を重ねる。

◎評価シート（平成29年度）

記入日 平成30年 3月27日

平成29年度実施した協働事業について、提案団体と事業担当課において、下記の内容により互いに評価を行うことで、意思の疎通を図り、今後の事業実施等に活かすため、ご活用ください。

団体名 (記入者名)	阪南吹奏楽団 ( 寺島 達久 )	事業担当課名 (記入者名)	学校教育課 ( 宮元 早苗 )
事業名	阪南市フレンドシップコンサート		
事業開始年度	平成26年度～		
提案の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民自由提案部門		<input type="checkbox"/> 市設定テーマ部門

1. 事業概要

(1) 事業目的・目標

阪南吹奏楽団の団員が習得している楽器演奏技術を子どもたちに伝えることで、音楽を通じた世代間交流をするとともに、子どもたちの向上心を喚起し、文化活動に対する意識を育み、青少年の健全育成を図る。

(2) 事業費の負担額

団体	0円
市	0円
合計	0円

(3) 実施した内容

日程調整ができた市内3中学校において部活動支援を通して、楽器の演奏技術向上および合奏での技術指導を行った。

\*鳥取東中学校 6/10・7/5・9/22      \*飯の峯中学校 7/15

\*貝掛中学校 7/6・7/8・8/29・9/26

2. 事業の評価

※評価点（3段階）

③	②	①
できた	概ねできた	できなかった

(1) 協働性

評価項目	評価点 (3段階)		
相互に理解し合い、対等な関係が築けたか。	3	②	1
事業全般を通じて十分に協議を行い、行政と十分な意思の疎通が図れたか。	3	②	1
責任の所在や役割分担は、適切であったか。	3	②	1
相互に相手の強みを事業に活かすことができたか。	3	②	1
それぞれ単独で実施するより、より効果を生み出すことができたか。	③	2	1

(2) 実現性・有効性

評価項目	評価点 (3段階)		
	3	2	1
協働の形態（委託・共催・事業協力等）は適当であったか。	3	②	1
事業を実施するのに、十分な実施体制をとっていたか。	3	②	1
関係する多様な人たちを巻き込めたか。	3	②	1
予算は妥当だったか。	3	②	1
参加者、受益者は意図した人たちだったか。	③	2	1
参加者、受益者の満足度は得られたか。	3	②	1
予定した成果は上がったか。	3	②	1
地域のまちづくりやコミュニティ形成に役立ったか。他の地域のモデルとなり、普及したか。	3	②	1

(3) 実施してよかった点・どのような点にメリットを感じたかなど

団体 にとって	吹奏楽を通して若い世代に技術の伝承ができ、阪南市における吹奏楽の技術向上を図ることができた。
市 にとって	各中学校からは的確なアドバイスで課題がわかり、演奏技術の向上とともに生徒が自信を持つことができ、効果が得られ、吹奏楽部での活躍を通じ、青少年の健全育成を図ることができた。
市民 にとって	各中学校区での地域フェスティバル等で、若い世代の演奏を聞いていただくことにより、音楽の素晴らしさと楽しさを演奏者と来場者と共有し、地域の活性化が図れた。

(4) その他、評価点の理由や課題・その改善点など

<p>*事業の目的・目標については技術支援という点では、一定達成できている。</p> <p>*クラブ活動の指導については、技術支援のみならず、「あいさつや礼儀を重んじること」「感謝の心を忘れないこと」「何事も全力で取り組む姿勢」「心を一つにして集団が同じ方向へ向かい取り組む大切さ」等を吹奏楽を通して指導していきたいという学校側の意図があり、支援に来ていただく際に、青少年の健全育成という部分も大切にする方向で取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>*学校のクラブ活動の在り方についても、新聞記事等で大きく取り上げられているように、土日の練習日を削減していきたいという意向のある学校もある。平日に技術支援を希望する学校があり、楽団の方は、社会人の方が大多数のため、支援の要望に添えないということも多く、日程調整が困難であった。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (  提案事業継続  提案事業以外 )  休止または終了  
 市が単独で実施  団体が単独で実施  
 その他 ( )

※実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など補足事項を記入してください。

\*今後の在り方について、「楽団の方から何らかの形で合同コンサートを開催できたら。」というご提案をいただいているが、予算面や楽団の希望する時期が、中学校にとって大きな学校行事と重なる等の課題が大きく、実現は厳しい現状であり、技術支援というかたちでの事業展開となる。

◎評価シート（平成29年度）

記入日 2018年 3月 30日

平成29年度実施した協働事業について、提案団体と事業担当課において、下記の内容により互いに評価を行うことで、意思の疎通を図り、今後の事業実施等に活かすため、ご活用ください。

団体名 (記入者名)	男里川水系環境保全活動実行委員会 (会長：辻山 正甫)	事業担当課名 (記入者名)	事業部 土木管理室 ( 廣谷 敏幸 )
事業名	男里川水系の環境保全を学習する活動		
事業開始年度	平成25年度～ (男里川水系環境保全活動実行委員会の設立)		
提案の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民自由提案部門 <input type="checkbox"/> 市設定テーマ部門		

1. 事業概要

(1) 事業目的・目標

男里川水系（山・川・海）を阪南市の地域の宝物として、未来の子供たちに良好な環境で引き継ぐことを目的として、地域の皆さんに環境の素晴らしさを認識し、環境保全活動の重要性を理解し、広く推進する運動（活動）を定着させる事を目指します。

(2) 事業費の負担額

団体	¥ 10,000 円(泉南市 ABC 委員会からの助成金・一斉清掃活動時の保険代等)
市	¥ 2,300 円(カレンダーの売り上げ)
	¥173,000 円 (協働事業の委託費)
合計	¥185,300 円

(3) 実施した内容

1. 夏休み親子の水生生物観察会【男里川の菟砥橋で実施し約 70 名の親子が参加】
2. 男里川水辺の学校（尾崎小学校 4 年生 2 クラス 60 名の校外学習の支援活動）
3. 環境啓発ポスター募集とカレンダーの作成（市内の小中高校生を対象に募集：200 名の応募作品で 2018 年のカレンダーを約 400 枚作成し応募者に配布と実費で販売しました。）
4. 男里川水系一斉清掃活動（男里川の全域で、阪南市・泉南市の市民約 200 名以上が参加）

2. 事業の評価

※評価点（3段階）

3	2	1
○できた	概ねできた	できなかった

(1) 協働性

評価項目	評価点 (3段階)		
相互に理解し合い、対等な関係が築けたか。	○3	2	1
事業全般を通じて十分に協議を行い、行政と十分な意思の疎通が図れたか。	○3	2	1
責任の所在や役割分担は、適切であったか。	○3	2	1
相互に相手の強みを事業に活かすことができたか。	○3	2	1

それぞれ単独で実施するより、より効果を生み出すことができたか。	03	2	1
---------------------------------	----	---	---

(2) 実現性・有効性

評価項目	評価点 (3段階)		
協働の形態（委託・共催・事業協力等）は適当であったか。	03	2	1
事業を実施するのに、十分な実施体制をとっていたか。	03	2	1
関係する多様な人々を巻き込めたか。	03	2	1
予算は妥当だったか。	3	02	1
参加者、受益者は意図した人たちだったか。	3	02	1
参加者、受益者の満足度は得られたか。	03	2	1
予定した成果は上がったか。	03	2	1
地域のまちづくりやコミュニティ形成に役立ったか。他の地域のモデルとなり、普及したか。	03	2	1

(3) 実施してよかった点・どのような点にメリットを感じたかなど

団体 にとって	市との協働事業として実施し、行政と男里川水系環境委員会がそれぞれ得意の分野を受け持ち、広いエリアの活動となり、更に大きな成果が得られた。
市 にとって	2月の男里川水系の一斉清掃ですが、府、市、自治会が、それぞれ役割分担を担い、活動することが、恒例となってきたのが実感できた。 また、8月の夏休み水辺の学校では、年々参加者が増え、水辺に親しむことの楽しさを、市民に実感してもらえた。
市民 にとって	阪南市内の自然環境（山・川・海等）の素晴らしさや、環境保全活動の大切さを市民の皆様感じて理解を戴けると考えます。

(4) その他、評価点の理由や課題・その改善点など

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 阪南市の持つ市内全域を対象とした広報ネットワークや、市との協働で市民からの信頼性（委員会に対する信頼性や自治会などの協力等）が得られ多くの市民等の参加が得られた。</li> <li>2. 男里川水系環境委員会のメンバーの高齢化と若年層の加入の拡大が必要。</li> <li>3. 活動メニューの固定化（良い面もありますが。）</li> <li>4. 活動や団体の運営での資金面の弱体（ほとんど市の助成金のみ）</li> </ol>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 ( 提案事業継続 提案事業以外) 休止または終了  
市が単独で実施 団体が単独で実施  
その他 ( )

※実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など補足事項を記入してください。

1. 自主財源としては参加費の徴収や、カレンダーなどの様に販売による資金の確保、及び広く活動助成している団体等への応募や、地元企業への寄付活動等。
2. 一方、活動費の縮減の中、今後の活動の方向性と効率化の検討。

◎評価シート（平成29年度）

記入日 平成30年4月12日

平成29年度実施した協働事業について、提案団体と事業担当課において、下記の内容により互いに評価を行うことで、意思の疎通を図り、今後の事業実施等に活かすため、ご活用ください。

団体名 (記入者名)	特定非営利活動法人 阪南まち づくり推進ネット ( 釣船廣子 )	事業担当課名 (記入者名)	地域まちづくり支援課 ( 岩下浩二 )
事業名	はなていカレッジ事業		
事業開始年度	平成26年度～		
提案の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民自由提案部門		<input type="checkbox"/> 市設定テーマ部門

1. 事業概要

(1) 事業目的・目標

市民、行政が共に学び、市民力、行政力の向上を目指すだけでなく「協働のまちづくりの担い手」を増やし、また、「協働のまちづくり」を効果的に推進することを目的とする。

(2) 事業費の負担額

団体	0円
市	196,000円
合計	196,000円

(3) 実施した内容

別紙のとおり

2. 事業の評価

※評価点（3段階）

3	2	1
できた	概ねできた	できなかった

(1) 協働性

評価項目	評価点 (3段階)		
	3	2	1
相互に理解し合い、対等な関係が築けたか。	3	2	1
事業全般を通じて十分に協議を行い、行政と十分な意思の疎通が図れたか。	3	2	1
責任の所在や役割分担は、適切であったか。	3	2	1
相互に相手の強みを事業に活かすことができたか。	3	2	1
それぞれ単独で実施するより、より効果を生み出すことができたか。	3	2	1

(2) 実現性・有効性

評価項目	評価点 (3段階)		
協働の形態（委託・共催・事業協力等）は適当であったか。	3	2	1
事業を実施するのに、十分な実施体制をとっていたか。	3	2	1
関係する多様な人たちを巻き込めたか。	3	2	1
予算は妥当だったか。	3	2	1
参加者、受益者は意図した人たちだったか。	3	2	1
参加者、受益者の満足度は得られたか。	3	2	1
予定した成果は上がったか。	3	2	1
地域のまちづくりやコミュニティ形成に役立ったか。他の地域のモデルとなり、普及したか。	3	2	1

(3) 実施してよかった点・どのような点にメリットを感じたかなど

団体 にとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの場を提供することにより、市民ニーズに貢献できた。</li> <li>・年間事業として大きな柱となり、活動の場となった。</li> </ul>
市 にとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して協働の担い手づくりの場が設けられた。</li> <li>・市民活動の担い手の育成につながった。</li> </ul>
市民 にとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他団体の活動や様々な分野の活動がすることができる。</li> <li>・定年された方々が地域活動を知り、参加できる機会になる。</li> </ul>

(4) その他、評価点の理由や課題・その改善点など

<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初の市民活動センター運営と平行して実施できなかったことが、4年目のはなていカレッジ開催に大きく影響し残念だった。</li> <li>・次年度以降の生涯学習関連施設との連携事業に繋がったことについては、これまで4年間開催してきた事業の意義は大きい。</li> </ul>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案事業継続  提案事業以外）  休止または終了  
 市が単独で実施  団体が単独で実施  
 その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など補足事項を記入してください。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後は、生涯学習関連施設等との連携を図り、はなていカレッジとは違った形での事業展開を行う。</li> <li>・ 阪南市内に「学びの場」が多くあることを知ってもらい、各施設や市民活動団体が連携した講座で、学びや活動のサポートを行っていく。</li> </ul>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成29年度

# はなていカレッジ4期生募集

第1回 8月5日(土)

13:30~15:30

防災コミュニティセンター

災害に備えるために学びませんか!  
～浜口梧陵の偉業を通して～

稲むらの火の館

館長 崎山 光一さん

第2回 9月2日(土)

13:30~15:30

防災コミュニティセンター

減災を学ぶ  
～震災体験談を交えて～

危機管理課職員

語り部KOBÉ1995

第3回 10月14日(土)

13:30~15:30

地域交流館体育施設

歩いて健康体験講座  
～基本的な歩き方から  
インターバル速歩まで～

関西大学

教授 河端 隆志さん

第4回 11月18日(土)

13:30~15:30

市役所別棟会議室

ひきこもり支援から見た  
今の若者像

和歌山大学名誉教授

紀の川病院 副院長

宮西 照夫さん

さあ、  
出かけよう  
「まなび  
の森」

第5回 12月9日(土)

13:30~15:30

市役所別棟会議室

人と人の絆を育む ～子ども・シニアの居場所づくり～

特定非営利活動法人ハートフレンド代表 徳谷 章子さん

波太地区福祉委員会

桃の木台校区福祉委員会

第6回 1月20日(土)

地域で幸せに暮らすために

支え合う仕組みづくりとは・・・

～増進型のまちづくり～

第7回 2月3日(土)

みんなでつくろう地域まちづくり

～市民&市職員 交流大会～

13:30~15:30

市役所別棟会議室

大阪府立大学 教授 小野 達也さん

主催/特定非営利活動法人 阪南まちづくり推進ネット  
阪南市総務部地域まちづくり支援課



◎評価シート（平成29年度）

記入日 平成30年6月6日

平成29年度実施した協働事業について、提案団体と事業担当課において、下記の内容により互いに評価を行うことで、意思の疎通を図り、今後の事業実施等に活かすため、ご活用ください。

団体名 (記入者名)	子どもNPOはらっぱ (川端 智代)	事業担当課名 (記入者名)	学校教育課 (丹野 恒)
事業名	子どもの声を聴き共有するラウンドテーブル		
事業開始年度	平成27年度～		
提案の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民自由提案部門 <input type="checkbox"/> 市設定テーマ部門		

1. 事業概要

(1) 事業目的・目標

子どもたちが安心、安全に暮らせる、笑顔あふれるまちづくりを実現するために子どもたちの心に寄り添い、声を聴き、提案団体と行政の情報共有の関係づくりをすることで、子どもの現状や子どもの周りで起きている問題・社会課題の解決を図っていく。

(2) 事業費の負担額

団体	0 円
市	0 円
合計	0 円

(3) 実施した内容

1月12日、3月19日に子どもNPOはらっぱ、子ども家庭課、生涯学習推進室、学校教育課の関係者が集まり、ラウンドテーブルを開催した。

2. 事業の評価

※評価点（3段階）

3	2	1
できた	概ねできた	できなかった

(1) 協働性

評価項目	評価点 (3段階)		
相互に理解し合い、対等な関係が築けたか。	3	②	1
事業全般を通じて十分に協議を行い、行政と十分な意思の疎通が図れたか。	3	②	1
責任の所在や役割分担は、適切であったか。	3	②	1
相互に相手の強みを事業に活かすことができたか。	3	②	1
それぞれ単独で実施するより、より効果を生み出すことができたか。	③	2	1

(2) 実現性・有効性

評価項目	評価点 (3段階)		
協働の形態（委託・共催・事業協力等）は適当であったか。	3	②	1
事業を実施するのに、十分な実施体制をとっていたか。	3	②	1
関係する多様な人々を巻き込んだか。	3	②	1
予算は妥当だったか。	3	②	1
参加者、受益者は意図した人たちだったか。	3	②	1
参加者、受益者の満足度は得られたか。	3	②	1
予定した成果は上がったか。	3	②	1
地域のまちづくりやコミュニティ形成に役立ったか。他の地域のモデルとなり、普及したか。	3	②	1

(3) 実施してよかった点・どのような点にメリットを感じたかなど

団体 にとって	子どもに関わる課と情報共有の関係づくりをすることで、子どもと保護者の現状や子どもの周りで起きている課題について、話すことができた。
市 にとって	「子どもNPOはらっぱ」と関係する各課がそれぞれの取組を共有する中で、子ども理解の場を持つことができた。
市民 にとって	平日の乳幼児のおやこ、放課後や休日の子どもの声や、関わる市民団体を通じて行政に届けることができた。 関係団体及び関係課で情報共有することで、それぞれが担当する事業、取組の充実に繋がった。

(4) その他、評価点の理由や課題・その改善点など

<p>学期ごとの開催を予定していたが、日程調整が十分にできず、年2回の開催となってしまった。 子どもNPOはらっぱが行う様々な事業を通じて見えてくる子どもの現状や課題を行政の担当課と情報共有する意義ある機会であり、有効な情報交換ができた。 今後は子どもの現状や社会課題を解決する糸口を見い出せる話し合いに発展できればと考える。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (  提案事業継続  提案事業以外 )  休止または終了  
 市が単独で実施  団体が単独で実施  
■ その他 ( 下記参照 )

※実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など補足事項を記入してください。

子どもたちや保護者に関わる日常について、市の担当課と市民で共有できる場があることは、課題解決に必要な事業であると考えている。今後は委託事業だけでなく、自主事業を通しての課題なども含め、個人情報等の守秘義務はありますが、できるだけ情報を共有し、子どもたちの環境整備のために、さらに貢献していきたい。(団体)

子どもに関わる団体や取組みは多様であり、別の形で関係課と関わっている団体や会議もある。そのような会議等に組み入れていく、統合していくことも視野に入れて、充実を図っていきたい。(担当課)

◎評価シート（平成29年度）

記入日 30年4月6日

平成29年度実施した協働事業について、提案団体と事業担当課において、下記の内容により互いに評価を行うことで、意思の疎通を図り、今後の事業実施等に活かすため、ご活用ください。

団体名 (記入者名)	箱の浦自治会まちづくり協議会 (岡 保正)	事業担当課名 (記入者名)	健康部介護保険課 (御坊谷 隆)
事業名	箱の浦から始まる高齢者・ひとり暮らしランチハウスの開設		
事業開始年度	平成27年度～		
提案の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民自由提案部門 <input type="checkbox"/> 市設定テーマ部門		

1. 事業概要

(1) 事業目的・目標

高齢者、特に1人暮らしの方、老々暮らしの方の食事のとり方について、栄養の偏りを解消するため、多くの方々と楽しんで食事をとるとともに、食事の後に雑談、カラオケで楽しく半日を過ごしてもらい、健康維持につなげていくことを目的としています。認知症の方の参加も増えて、効果が出ています。

(2) 事業費の負担額

団体	30万円（家賃・食材費）
市	0円（前年度12万円）
合計	30万円

(3) 実施した内容

月3回のランチ会：毎週月曜日のモーニングサロン開催の活動を実施して、大きな効果を上げている。

2. 事業の評価

※評価点（3段階）

3	2	1
できた	概ねできた	できなかった

(1) 協働性

評価項目	評価点 (3段階)		
相互に理解し合い、対等な関係が築けたか。	3	2	1
事業全般を通じて十分に協議を行い、行政と十分な意思の疎通が図れたか。	3	2	1
責任の所在や役割分担は、適切であったか。	3	2	1
相互に相手の強みを事業に活かすことができたか。	3	2	1
それぞれ単独で実施するより、より効果を生み出すことができたか。	3	2	1



(2) 実現性・有効性

評価項目	評価点 (3段階)		
	3	2	1
協働の形態（委託・共催・事業協力等）は適当であったか。	3	2	1
事業を実施するのに、十分な実施体制をとっていたか。	3	2	1
関係する多様な人々を巻き込めたか。	3	2	1
予算は妥当だったか。	3	2	1
参加者、受益者は意図した人々だったか。	3	2	1
参加者、受益者の満足度は得られたか。	3	2	1
予定した成果は上がったか。	3	2	1
地域のまちづくりやコミュニティ形成に役立ったか。他の地域のモデルとなり、普及したか。	3	2	1

(3) 実施してよかった点・どのような点にメリットを感じたかなど

団体 にとって	今後急速に進む高齢者対策の一環として、取り組みの大きな経験、勉強になっている。
市 にとって	担当課と実施団体のセッションを通じて、地域の高齢者の実情の理解ができた。
市民 にとって	地域住民にとって、社会参加ができる「居場所」があることで、大きなメリットがあると考えられる。

(4) その他、評価点の理由や課題・その改善点など

活動の評価はできると思うが、運営方法等まだまだ改善点が多く、行政・実施団体の連携点など考えなくてはならない。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案事業継続  提案事業以外）  休止または終了  
 市が単独で実施  団体が単独で実施  
 その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など補足事項を記入してください。

私達の活動を阪南市全体に広げられるように、更に活動を進めたい。  
 活動の元になる財源については、自主財源をめざして（支援団体）応募を行い支援を受け、財源を確保していきたい。  
 今後、市として、「介護予防・日常生活支援総合事業」における「住民主体による支援」を実施する団体（予定）として、連携を取っていきたい。

◎評価シート

記入日 H30年3月9日

事業の一定期間経過後、提案団体と事業担当課において、下記の内容により評価を行い、「報告会」の際の資料として活用します。

団体名 (記入者名)	本のリサイクル運営委員会 ( 釣船 廣子 )	事業担当課名 (記入者名)	図書館 ( 加藤 靖子 )
事業名	本のリサイクル関連事業		
事業開始年度	平成29年度～		
提案の区分	<input type="checkbox"/> 市民自由提案部門 <input checked="" type="checkbox"/> 市民設定テーマ部門		

1. 事業概要

(1) 事業目的・目標

目的は年3回のリサイクル事業を恒常的に行うための場所を確保し、その場を運営する組織を立ち上げること。市立図書館の除籍済み資料及び不用とする寄贈資料を最大限活用して、その収益を社会に還元すること。

(2) 事業費の負担額

団体	13,450 円
市	316,036 円
合計	329,486 円

(3) 実施した内容

4月に運営委員会を組織し、毎週土曜に「リサイクルブック“つながり”」として本を販売することを決定。2月末までに運営委員会11回、役員会2回、ディスプレイ作業日数4日。9月16日のオープン以来2月末までの実績は、来場者2,229人、売上冊数2,525冊、収益116,270円となっている。今年度の収益から、図書館の来年度の雑誌スポンサーとして3誌の年間購読料を負担することが決定している。イベント企画やブログでの発信、新規メンバー募集も始めている。

2. 事業の評価

※評価点(3段階)

3	2	1
できた	概ねできた	できなかった

(1) 協働性

評価項目	評価点 (3段階)		
相互に理解し合い、対等な関係が築けたか。	3	2	1
事業全般を通じて十分に協議を行い、行政と十分な意思の疎通が図れたか。	3	2	1
責任の所在や役割分担は、適切であったか。	3	2	1
相互に相手の強みを事業に活かすことができたか。	3	2	1
それぞれ単独で実施するより、より効果を生み出すことができたか。	3	2	1

(2) 実現性・有効性

評価項目	評価点 (3段階)		
協働の形態(委託・共催・事業協力等)は適当であったか。	3	2	1
事業の実施は円滑であったか。	3	2	1
事業の目的・目標は達成できたか。	3	2	1
事業に対する受益者(市民)の満足度は高いものであり、幅広い市民に賛同されているか。	3	2	1
地域のまちづくりやコミュニティに寄与するなど十分な成果をあげることができたか。	3	2	1

(3) 実施してよかった点・どのような点にメリットを感じたかなど

団体 にとって	"つながり"という新しい活動が始まり、生きがい創出の場となった。
市 にとって	市民にリサイクル本を提供する回数が増え、収益が市に還元される。この事業が新聞やテレビ等メディアで紹介されたことで、市の市民協働の取組みが注目された。ブログ発信やくじ引き等のイベント他、限られた職員ではできない新たな展開が素晴らしい。
市民 にとって	回数が増えたことで、リサイクル本を目にし、手に入れる機会が増えた。思いがけない本との出会いがあり、安価で入手できる。無料ではなくなったが、収益が新しい本を買う役に立つのならばよい、という声もある。

(4) その他、評価点の理由や課題・その改善点など

<p>市が場所と備品、リサイクル本を提供し、団体がリサイクル本を安価で販売し、得た収益は社会に還元するという事業が計画通りに進んでいる。思いがけず、サラダホールのレストラン跡スペースが使用できたことは、この事業を大きく前進させた。</p> <p>課題は、図書館来館者が最も多い土曜日に事業開催しているが、平日開催を望む声もあることであり、現状以上に開催日を増やすことは、運営にかかわるボランティアの負担が大きくなる。新規メンバーの募集により、改善を目指す。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (  提案事業継続  提案事業以外 )  休止または終了  
 市が単独で実施  団体が単独で実施  
 その他 ( )

※実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など補足事項を記入してください。

<p>来年度以降は、市からはリサイクル本の提供は続くが、運営にかかる費用負担は団体が収益でカバーする。また、「市民交流の場をどう作っていくか」が、地域のまちづくりにどの程度貢献できるかにつながると思うが、これについてはまだ時間がかかりそうである。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------